

熊本大学

乳腺・内分泌外科



医局ホームページはココ!

お問い合わせメールはコチラ!





http://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/breast/index.html breast@kumamoto-u.ac.jp

〒860-8556

熊本市本荘 1-1-1 臨床医学研究棟 3F

Tel 096-373-5521

Fax 096-373-5525

平成 22 年度入局の冨口です!

私の経験した卒後教育(後期研修)について紹介させて頂きます。

<入局後の流れ・・・私の場合>

入局後1年目(3年目):大学病院 主に病棟医としての業務

入局後2年目(4年目)~3年目:熊本医療センター 外科レジデント 一般外科の研修

入局後4年目(6年目)~現在:大学院 主に研究



大学院生のお部屋にて

医局は大変アットホームな雰囲気で、岩瀬教授、山本准教授をはじめスタッフの先生方との距離が近いため様々なことを相談しやすい環境です。入局後は主に病棟担当医として手術を中心に臨床の現場で経験を積んでいくのですが、岩瀬教授や山本准教授の外来陪席もさせて頂き、術前術後の外来での患者さんとの関わりや治療について学ぶことができます。4年目以降に関連病院に出た場合、どの科にいても外来担当をする時がくると思うのですが、陪席の経験があることで初めて外来を担当する時にも大学で学んだことを活かしてなんとか診療ができていたのではないかと思っています。また、マンモグラフィや超音波検査

の読影については上級医の先生方のご指導でたくさんの症例数を読影することができ、マンモグラフィ 読影医師の資格を 3 年目で取得することができました。外来陪席で診断→マンモグラフィや超音波検査 担当で検査→生検で確定診断→治療(病棟で手術、外来で術前術後の薬物療法など)→再発〜緩和ケア まで幅広い場面で患者さんと関わるということは当科の魅力のひとつであると考えます。

現在の制度では外科専門医を取得した後に乳腺専門医を目指すという流れのため、入局後は関連施設で約 2 年間の一般外科の研修を受けることになります。私は入局前、この外科研修というのが大変不安



毎週月曜午後はみっちり診療カンファレンス

でしたが、先輩や後輩や他施設の同期などにきいても一般外科の研修が辛かったという人はほとんどいません。私自身も始まってみればきついこともありましたが、乳癌術後ではあまり体験することのない重症患者の全身管理や救急の現場を経験することで医師としての大きなスキルアップにつながったと感じています。外科専門医についても消化器外科や呼吸器外科の同期に遅れることなく取得することができました。

平成 16 年度開始の臨床研修制度以降の入局なのですが、入局後の指導体制・キャリア形成の流れがしっかり整っています。また女性については妊娠・出産による勤務形態についても個人のニーズに合わせて相談できる柔軟性をもっている科です。乳腺というマイナー分野でありなかなかイメージがわきにくいところではあると思いますが、少しでも興味のある方は是非一度お気軽に見学にきてみて下さい!





誕生日もお祝いしてます

医局旅行もありますよ

平成 23 年度入局の山口です!

入局後は上級医からの熱心な指導がある事に加え、検査、診断、治療から緩和医療まで多職種を含むチームでカンファレンスを交えながら方針を決定していくので、まだ経験が浅い時期でも心強い気持ちで診療を行う事ができました。医局全体がとてもアットホームな雰囲気であり、上級医への質問もしやすく働きやすい教室だと思います。また外科系の中では女性医師が多い科でもあり、家事、育児や出産と仕事の両立などについても安心して相談する事ができますよ。お気軽に、メールでもください!





きらりと光るデータマネージャさん☆

女性の園です

平成 23 年度入局の藤木です!

はじめまして、卒後6年目になります藤木義敬と申します。 私は熊本赤十字病院にて初期研修を終えて、乳腺内分泌外科 に飛び込みました(入局しました)。前から甲状腺、乳腺に 興味があり、臓器別になっている熊本大学は私にとって最適 でありました。

入局後、右も左もわからない状況の中、岩瀬教授をはじめ医局の先生方のアットホームな指導(時に厳しい)の下、楽しい1年間を過ごしました。1年の中でたくさんの手術をさせて頂きましたし、入局一年目から手術執刀医となる科はあまりありません。この1年は、乳腺内分泌外科としての基礎となる自分にとって大切な一年だったと今も感じております。入局2年目からは外の病院(私は熊本済生会、熊本医療セン



きらりと光る若手男性医師です☆

ター)にて、外科専門医を取るために外科の手技の勉強に出ることになりますが、手術を行う上で様々な分野の手技を勉強し身につけることは、将来において大変為になる期間です。また、分野を超えて人と人のつながりを作るという上でもいい期間だと思います。

この卒後教育を受けた期間、将来にとってとても有意義な期間として過ごすことができました。今後 入局される方にとってもいいシステムだと思います。詳しく聞いてみたい方はどうぞお気軽にご連絡く ださい!

医局長の指宿です!入局年度は秘密。

かつて、女性医師の産後の社会復帰には高くて厚い壁があったようですが、現在は徐々に働きやすい (働かざるをえない?)環境が整備されてきています。大学や病院からも子育て中の女性医師への援助 が積極的に行われています。経験上、子供がいると有意に仕事に費やせる時間が減少します。集中力が 高まり(高めざるをえない)、以前よりも「効率よく早く正確に」、を目標に仕事を進める(進めざるを えない)ようになります。ちょっと気を抜くと半人前に逆戻りです。まあ、いろいろ辛い時もあります。 でも、乳腺の領域は「女性が女性を診療する」ことで圧倒的に女性医師の特権を感じることが多いです。 「この分野を選んで良かった」とじんわり感じることがしばしばです。

人間ひとりひとり、考 え方やとりまく環境が違 うものです。ライフイベ ントも、時間的空間的に ひとりひとり多種多様で しょう。この医局に入ら れなくても、入られても、 もし、誰かがライフワー クバランスで困ったとき、 何か少しでもお手伝いが できるような存在でいた いと思っています。特に 華やかな容姿もオーラも 持たず、普段はいかにも 忙しそうになりふり構わ ず働いていますが、意外 と考えが深かったりする かもしれませんよ。ぜひ お気軽にお声をおかけく ださい!

mibusuki@kumamoto-u.ac
.jp



2014 年、女性研究者ロールモデル 誌に掲載されました。→ Role Model

確固たる目的とアイデンティティ、 そして気力と体力

指宿睦子 熊本大学大学院生命科学研究部助教

外科医、そして研究者という アイデンティティ

私は"研究者"というよりも"医師"とくに"外科医"としての自覚が強いかもしれません。 医師になってしばらくは何でも切れる(?)外科医を目指して修行しました。 その経験を活かしつつ、今は主に乳がんの治療を行っています。 一方で、大学ならではとも言える先進的医療(治験や臨床試験)や、乳がんの治療効果や予後を規定する因子の研究も並行して行っています。あ、やっぱり"研究者"でもありますね(笑)。

研究の面で、これからもっと深めていきたいのが、"トランスレーショナルリサーチ"。 患者さんから頂いたがんの組織・血液の遺伝子やタンパク発現を調べ、細胞や動物を使った基礎実験の結果と照らし合わせながらより役立つマーカーを探ししていく仕事です。 この分野に興味を持ったのは、大学院で患者さんの情報のデータベース化、組織の採取と管理、発現解析研究の立ち上げに関わったことが大きいと思います。 海外の研究室で知見を深めるのもいいかなと思っています。



乳腺・内分泌外科の懇親会。ママさんは子ども連

大学は"評価の機会"が 与えられる場所

臨床医は当直を含め事実上24時 間以上働くことを求められます。 独 身の頃は普通に実現できていました が、子育てをするようになると物理 的に不可能でした。そのことに関す る葛藤と、仲間に迷惑をかけている という劣等感とが常にあります。た だ、大学では医師としての診療活動 の他にも研究・教育の面が大きく評 価されます。では逆にこれを利点に しようかな、と。 診療・研究・教育・ 子育ての4本柱を断片的にこなすに も、相当の体力と気力が必要。常に 5年後くらいの自分と仕事・家族の 状況を想像しながら、あえて完璧は 目指さず優先順位をつけてコツコツ やっていく、という感じです。

仕事でも家庭でも、いろいろな面で私を理解し支えてくれる夫の存在はとても大きいです。 仕事で疲れていても、家族で一緒になって存分に騒ぐとリフレッシュしますね。

4本の柱から得た多面的な視点で、 "できる"そして"役に立つ"人材になれるよう、これからもがんばります!



家族旅行の思い出 with オパール掘りのおじさん人形



profile

いぶすきむつこ/無本大学医学部医学科卒業。研修医を経て、2001年から鹿児島県出水市立病院外科で消化器外科医員として研鑽を積み、2005年より熊本大学医学部附属病院乳腺・内分泌外科医員として勤務。2008年熊本大学生命科学研究部博士課程修了後、2011年5月から現職。医学博士・日本外科学会専門医・日本外科学会専門医・日本の母。の母。